



日刊 動労千葉

国鉄千葉動力車労働組合

〒260-0017 千葉市中央区要町2番8号 (DC会館)

電話 { (鉄電) 千葉 2935・2939 番
(公) 043(222)7207 番
FAX 043(224)7197 番

2000.10.28 号外

JR総連の組織崩壊が始まった!

1047名闘争勝利へ今こそ闘う方針を

4党合意の謝罪・撤回 を求め都労委に申立て

定期全国大会に結集された国
労の仲間たちに心から訴えます。
4党合意は、一〇四七の解雇
撤回闘争と国労をつぶすために
仕組まれた重大な攻撃です。

昨日申し立て!

4党合意はそれ自身が明白な
不当労働行為です。私たちは昨
日、東京都労委に、4党合意が
一〇四七名の採用差別撤回・J
R復帰を求めて闘いつづけてい
る各組合への違法な干渉である
ことを認めて謝罪するよう求め
て、自民党や運輸大臣、JRを
被申立人とする不当労働行為の
救済申し立てを行いました。

われわれも、国労闘争団の仲
間たちとともに、一〇四七名闘
争の当該組合として、政府・J
Rに責任をとらせ、不当解雇を
撤回するまで、力の限り闘いぬ
く決意です。

国家的不当労働 行為の総仕上げ

4党合意は、労働組合の基本
方針の転換・変質を迫って、採
用差別を受けた当事者に、「不
当労働行為はなかった」と言わ

せようというものです。人生を
かけて闘ってきた一〇四七名や
家族の闘いを自ら否定せよとい
うのです。それ自身が前代未聞
の悪質な不当労働行為です。

しかも、全国の労働委員会が
一致して不当労働行為と認定し、
ILOも団結権保護を定めた国
際条約に違反するとした採用差
別について、JRに法的責任が
ないことを認めよ、国鉄改革関
連の訴訟を取り下げよ、と迫る
ことは、労働委員会と不当労働
行為救済制度を実質的に否定・
解体するに等しいものです。さ
まに国家的不当労働行為の総仕
上げというべき違法行為です。

全ての労働者に 向けられた攻撃

こんなことを許したら、一〇
四七名の人生をかけた闘いが水
泡に帰すばかりか、永々たる闘
いによって築きあげてきたすべ
ての労働者の団結と権利が深刻
な危機に陥ることは明らかです。
国鉄方式のリストラ攻撃が吹
き荒れ、労働者が戦後最悪の無
権利状態に置かれている状況の
なかにあつて、4党合意を強要
しようとする支配者たちに意図

は明らかです。4党合意という
かたちでわれわれに突きつけら
れたのは、たんに国鉄労働者の
みならず、日本のすべての労働
者と労働運動の未来を左右して
しまうような重大な刃です。4
党合意の受け入れは、「人類の
多年にわたる自由獲得の成果」
を権力者に売り渡してしまいうに
等しいことです。

われわれは、こうした認識に
たち、4党合意の大陰謀と真正
面から闘いぬく決意を込めて、
新たな労働委員会闘争を開始し
ました。ともに闘われんことを
心から訴えます。

一体これは 何なのか!

この数か月あまりの間、4党
合意の推進者たちは、不当解雇
された当事者である闘争団や家
族の必死の訴え、抗議の声には
一切耳をかさず、それどころか
国労の団結にさえ修復不可能な
ほどの亀裂を生みだしながら、
まさにゴリ押しとしか言いよう
のないやり方で、大会決定を強
引におし通そうとつづけてまし
た。「4党合意は到達地平だ」な
どという、自民党も赤面するよ

うなスローガンが繰り返され、
何がなんでも4党合意を通すこ
とだけが自己目的化されている
ような状況がつづいています。

国労の団結を守り強化するた
めには何をなすべきで、何をし
てはならないのか、全国の支援
の仲間たちの力を結集し、政府
やJRをさらに窮地にたたせる
ような闘いをどのように展開す
るのか、政府に対し、JRに対
し、あるいは一〇四七名闘争の
最大の障害物であるJRとJR
総連・革マルの結託体制にどの
ような闘いを展開するのか等々、
闘いのこの正念場にあたって、
今こそ真剣に検討し方針をたて
るべき幾多の課題は、一切忘れ
去られ、封じ込められている状
態です。そして、闘いつづけよ
うと訴える闘争団や家族には「
暴徒」とか「反組織行為」など
のレッテルが貼られる。一体こ
れは何なのか。

JR体制の激震 闘いの好機到来

4党合意の推進者たちが主張
することは、つきつめていけば
すべて「これがラストチャンス
だ」という点に行き着きます。
このままいけば国労は「ジリ貧」
で、これがラストチャンスだと
いうのです。しかし、組織をあ
げて職場からの闘いを展開し、
力関係を逆転させようという努
力もせずに、このような主張を
繰り返すのは、それ自身ごまか
しに他なりません。
情勢の分析も、政府や自民党

の動向を、あたかも国労の見方
かのように美化して語るだけの
ものになり、情勢全体を見て闘
いの方針を提起することすらな
っています。しかし今、国鉄闘
争をめぐる情勢は激しく動きだ
し、闘いは反転攻勢への絶好の
チャンスを迎えているのです。

九州労の

組織崩壊!

JR九州で、JR総連九州労
の組合員の八割以上にあたる七
百数十名が、一斉に集団脱退し
まし、九州労は実質的に崩壊・
消滅しました。

この組織崩壊の最大の特徴は、
JR総連の自己崩壊、JR総連
を支配してきた革マルの自己崩
壊として事態が進行しているこ
とです。集団脱退の先頭にたつ
ているのは、九州労の各地本委
員長、書記長であり、そればか
りか、九州労の本部委員長も脱
退届を受けとるためにのみ残留
している状態です。

起きている事態があまりにも
劇的なため、一部では「革マル
によるJR連合への偽装加入戦
術だ」「潜り込み戦術かもしれ
ない」という見解が表明されて
いますが、そんなことは一〇〇
%あり得ません。

どんな手段を使つても、J
R東日本における資本と東労組
・革マルの結託体制を維持する
ことを唯一の価値基準として、
JR西日本や東海、九州などの
JR総連組織はその、そのた
めの将棋の駒として「対決姿勢」

をとらせたり、自己批判を迫つ
たりを繰り返すような、革マル
・松崎特有のやり方が、当然の
結果として、ついにその矛盾を
噴き出したのです。

JR総連の大

崩壊の始まり

しかし、同様の矛盾が最も大
きくウズをまき、堰を切つてあ
ふれだそうとされているのは
東労組です。一方で資本との異
様なまでの癒着・結託をつづけ
ながら、他方では沸き上がる疑
問の声や怒りの声を徹底した組
織統制で抑えつけ、「国労・J
R連合解体運動」のみに駆りた
てるようなやり方は、もはや限
界に達しています。

東労組の若い組合員は、今怨
嗟の念を込めて自分の組合を次
のように語っています。「ウチ
の組合は宗教学法人東労組です
から」「うちの組合はオウム東教
だ」「ウチの役員はハイルヒト
ラーですから」「ウチの役員は
みんな頭にマイクロチップを埋
め込まれている」……。

九州で劇的に始まった事態は、
JR総連の大崩壊、最後のな組
織崩壊の過程がいよいよ始まっ
たことを示しています。

「結託体制」一攻

撃の構造の瓦解

国鉄の解体と20万人に及ぶ国
鉄労働者の首切りという、戦後
最大級の労働者への攻撃が貫徹
された最も大きな要因は、「総

評の鬼つ子」と言われた旧動労
が裏切り、転向し、差別・選別・
首切りの手先となつて、国労や
動労千葉に襲いかかったことに
ありました。以降今日に至るま
で、職場で吹き荒れた不当労働
行為や大合理化攻撃など、あら
ゆる攻撃が、旧動労・革マル勢
力が支配するJR総連を手先と
したJRの結託体制によって、
われわれに強制されるという構
図が形成されてきました。

一〇四七名の解雇撤回闘争を
激しく妨害しつづけたのもJR
総連・革マルであり、「結託体
制」であったことは言うまでも
ありません。それは、一九九〇
年三月、採用差別を受けた仲間
たちが清算事業団からの二度目
の不当解雇を受けようとしてい
たときに、「政治介入反対」と称
し、スト権までたてて、首切り
要求のデモンストレーションを
行う、というやり方のなかに典
型的に示されています。

しかしそれは、一〇四七名が
不屈の闘いを継続する状況のな
かで、逆にJR西日本以西の組
織崩壊をもたらしました。以降
も闘いの最大の障害でありつづ
けたのは周知のとおりJR東日
本の結託体制でした。

闘えば必ず

響く情勢!

そして今、いよいよ東日本を
含めたJR総連の大崩壊が始ま
ろうとしているのです。国鉄分
割・民営化以来強いられてきた
困難な状況をはね返す絶好の情

勢が到来しています。

とくにJR東日本の場合、鉄
産労の組織率がごく少数に過ぎ
ないこと等、JR連合への統一
による御用組合化という条件は
ありません。この状況を見さえ、
組織をあげた闘いを挑めば、闘
う国鉄-JR労働運動の再生が
可能な条件が大きく生まれてい
るのです。東労組の革マル支配
から離反しはじめている膨大な
労働者の声は、新たな御用組合
を求めてはいません。

一〇四七名闘争の勝利の展望
をきりひろくためにも、今何よ
りも求められているのは、JR
総連解体-組織拡大闘争や、メ
ンテナンス合理化、検修・構内
の全面外注化等、新たな大合理
化攻撃との闘いに組織の総力を
あげて起ちあがることです。打
てば響く情勢です。

闘いに起とう!

われわれは、この30日にもス
トライキの事前通知を行い、J
R体制との組織をあげた闘争体
制に突入する予定です。

また11月5日には、全国の仲
間たち呼びかけて、闘う労働
運動の全国ネットワークと、一
〇四七名闘争の勝利をめざす総
決起集会を開催します。

4党合意を拒否し、JR体制
との新たな組織戦に起ちあがる
う。大リストラ攻撃にされされ
ている全国の仲間たちに労働運
動の再生をめざす新たな呼びか
を発しよう。原点に返つて一〇
四七名の解雇撤回闘争を貫こう。

闘う労働組合の全国ネットワークをつくろう!

★全労働者の団結、4党合意に反対し、1047名闘争に勝利しよう!

11・5 全国労働者総決起集会

◎ 11月5日 日正午 / 日比谷野外音楽堂

【呼びかけ】

全日建関西生コン支部
全国金属機械・港合同
国鉄千葉動力車労組